

令和 7 年定例会

政策企画雇用経済観光常任委員会

所管事項説明資料

◎ 所管事項説明

- 1 『令和 7 年版県政レポート』に基づく今後の『県政運営』等に係る意見
への回答について . . . 1
- 2 インバウンド誘客に向けた計画策定の進捗について . . . 3
- 3 三重県観光振興基本計画年次報告について . . . 7
- 4 指定管理者が行う三重県営サンアリーナの管理状況報告について . . . 13
- 5 三重県営サンアリーナの指定管理候補者の選定過程について . . . 23
- 6 各種審議会等の審議状況の報告について . . . 29

(参考)

別冊 三重県観光振興基本計画年次報告書（令和 6 年度施策実施状況）

令和 7 年 10 月 16 日

観 光 部

1 「『令和7年版県政レポート』に基づく今後の『県政運営』等に係る意見」への回答

【政策企画雇用経済観光常任委員会】

●施策の取組

施策番号	施策名	主担当部局名	委員会意見	回答
5-1	持続可能な観光地づくり	観光部	本県は、山や川、海など豊かな自然を有しており、観光資源として、県政レポートに記述されたい。	自然や歴史・文化、食など三重が持つ観光資源の特色を県政レポートに記載しました。
			バリアフリー観光を推進する県として、誰もが三重の観光を楽しむことができるバリアフリー観光の取組を進められたい。	バリアフリー観光に関する情報を発信するとともに、旅行会社を対象とした視察旅行を実施し、バリアフリー観光に資する旅行商品の開発・造成につなげるなど、誰もが三重の観光を楽しむことができるようバリアフリー観光の推進に取り組んでまいります。
5-2	戦略的な観光誘客	観光部	次期神宮式年遷宮等を見据え、インバウンド誘客に取り組まれたい。	第63回神宮式年遷宮等も見据え、有識者や県内のDMO、事業者等の関係者から意見を聞き、常任委員会で案をお示ししながら、本年度を目途にインバウンド誘客に向けた戦略を策定してまいります。

2 インバウンド誘客に向けた計画策定の進捗について

県内観光産業の持続的な発展に向けて、インバウンド誘客を強力に展開するため、「みえインバウンド誘客計画（仮称）」の策定を進めており、先進地視察やデータ分析、県内観光関係者へのアンケート調査等に取り組んでいるところです。

（１）先進地視察

インバウンド誘客で先進的な取組を進めている地域を対象に現状と課題や推進体制、プロモーションの手法等についてヒアリングを行いました。

令和 7 年 3 月 徳島県、岡山県

7 月 高山市、石川県、長野県、長野県観光機構

8 月 香川県、広島県、広島県観光連盟、姫路市

（２）J N T O（国際観光振興機構）海外事務所長等からのヒアリング

海外旅行市場の最新動向や旅行者の趣向を把握するため、J N T O 海外事務所長等が帰国する機会をとらえ、ヒアリングを行いました。

令和 7 年 9 月 ニューヨーク事務所、ロサンゼルス事務所、ロンドン事務所、パリ事務所、フランクフルト事務所、日本台湾交流協会、ソウル事務所、バンコク事務所

（３）計画策定に向けた調査

ア インバウンドに関するデータ分析

本県が今後、重点的に取り組む国・地域の方向性を検討するため、本県の外国人延べ宿泊者数の推移や人流データを活用した訪問ルート分析、消費動向等の現状把握・分析を進めていきます。

重点的に取り組む国・地域の検討にあたっては、J N T O が訪日プロモーション事業の重点市場に掲げる 22 の国・地域※を中心に、その経済動向や旅行者の動向・意向などの市場情報について整理していきます。

※ J N T O の重点市場（22 の国・地域）

韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、インド、豪州、米国、カナダ、メキシコ、英国、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、北欧地域（スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド）、中東地域（サウジアラビア、アラブ首長国連邦、バーレーン、オマーン、カタール、クウェート、トルコ、イスラエル）

イ アンケート調査

県内の宿泊施設や体験施設、DMO（観光地域づくり法人）などの県内観光関係者に対して、インバウンドの状況や課題等に関するアンケート調査を実施しました。

○時期：7月10日から7月31日まで

○回答数：81者・団体（回答率：45%）

○対象者数：三重県観光連盟インバウンド委員会の会員、伊勢志摩観光コンベンション機構と連携するインバウンドに積極的な事業者 計180者（重複者除く）

ウ ヒアリング調査

上記アンケート調査の対象者を中心に、インバウンドの状況や課題、取組などを詳細に把握するため、ヒアリング調査を進めています。

○時期：9月10日から10月（予定）まで

○対象者数：40者程度（予定）

（4）今後のスケジュール

新たに「みえインバウンド誘客計画検討有識者会議（仮称）」を設置し、統計データや観光関係者等のご意見をもとに、インバウンド施策に反映していく予定であり、有識者会議の第1回会議は今月中に開催する方向で調整を進めています。

随時、常任委員会に案をお示ししながら策定作業を進めていきます。

【参考】みえインバウンド誘客計画検討有識者会議（仮称） 委員

（敬称略 五十音順）

石坂 督規 埼玉大学 教授

伊与田 美歴 国際観光振興機構 理事

柴原 昇 三重県観光連盟インバウンド委員会 委員長

須崎 充博 伊勢志摩観光コンベンション機構 専務理事

高木 俊道 三重県旅館ホテル生活衛生同業組合 青年部長

本保 芳明 アジア太平洋観光交流センター 理事長

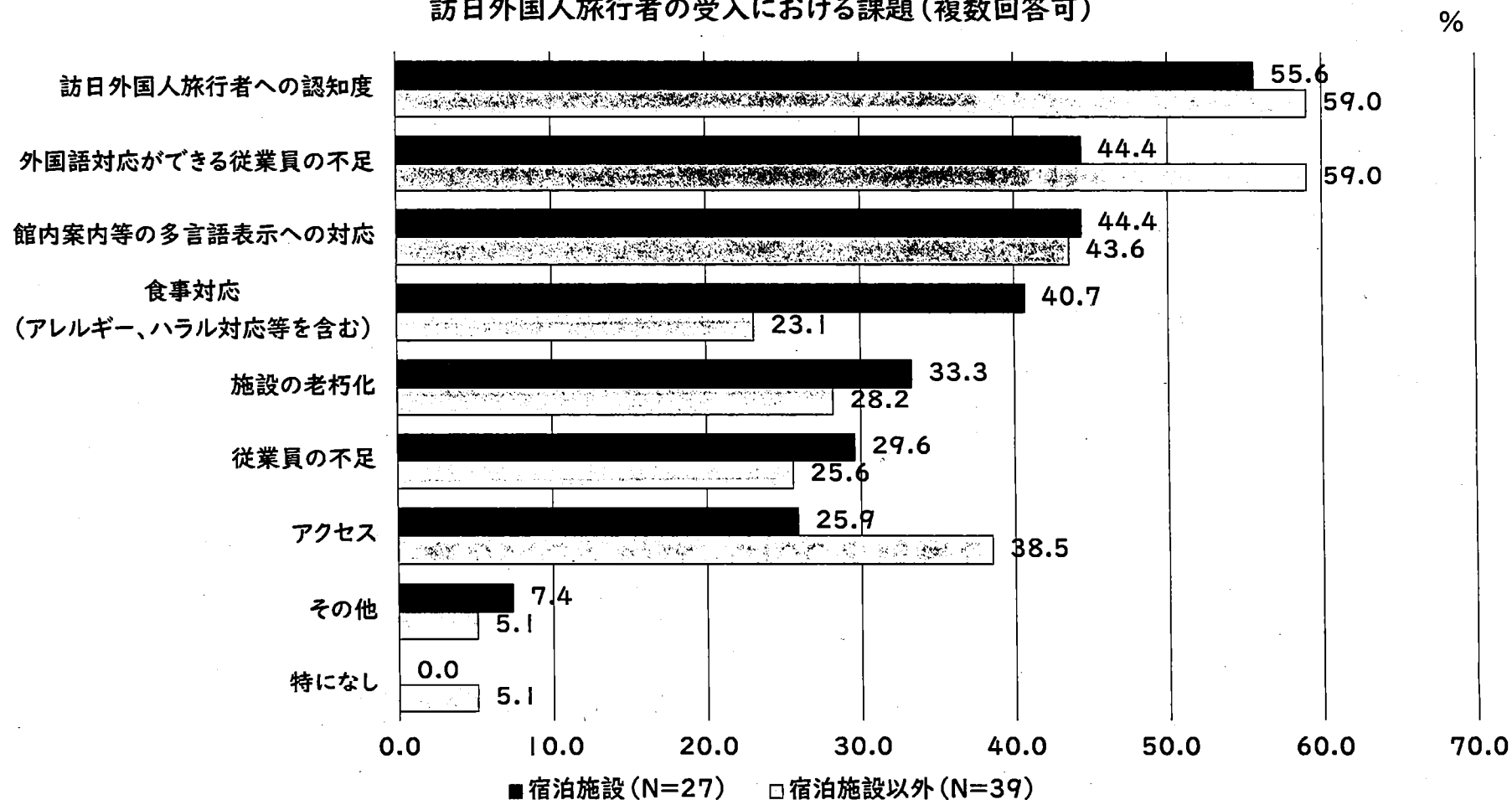
三重野 真代 武蔵野大学経営学部 特任教授

山田 桂一郎 J T I C . S W I S S 代表（スイスツェルマツト観光局）

県内観光関係者へのアンケート(受入における課題)

○宿泊施設、宿泊施設以外(飲食店、体験施設など)ともに「訪日外国人旅行者への認知度」や「外国語対応ができる従業員の不足」、「館内案内等の多言語表示への対応」を課題とする割合が高い。

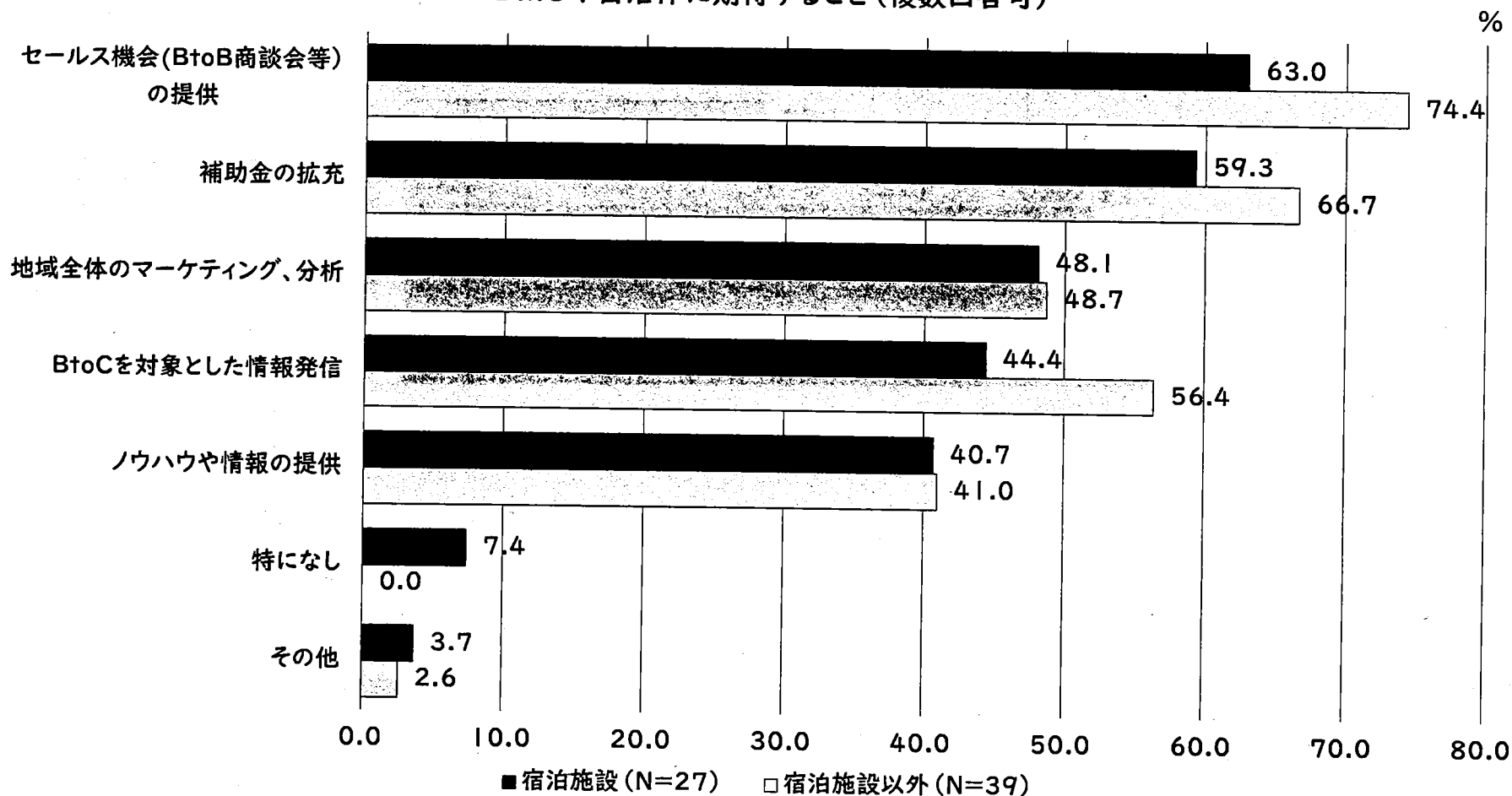
訪日外国人旅行者の受入における課題(複数回答可)



県内観光関係者へのアンケート(DMO・自治体に期待すること)

- 宿泊施設、宿泊施設以外(飲食店、体験施設など)ともに「セールス機会(BtoB商談会等)の提供」が最も多い。
- 両者の割合の差が最も大きいのは「BtoCを対象とした情報発信」で、宿泊施設以外の割合が高い。

DMOや自治体に期待すること(複数回答可)



3 三重県観光振興基本計画年次報告について

みえの観光振興に関する条例（平成 23 年 10 月 20 日三重県条例第 34 号）第 21 条の規定に基づき、三重県観光振興基本計画（令和 6 年度～8 年度）（以下、「基本計画」という。）に基づく施策の実施状況等について、令和 6 年度分を年次報告として取りまとめました。

（１）三重県観光振興基本計画の目標達成状況

		目標項目（KGI）	R 6 目標	R 6 実績	R 8 目標
主目標		観光消費額	5,130 億円	5,236 億円	6,000 億円 ～ 7,000 億円
		目標項目（KGI）	R 6 目標	R 6 実績	R 8 目標
副目標 1	旅行者よし	観光紹介意向率	36.5%	33.5%	45.0%
副目標 2	事業者よし	観光従事者満足度	55.0%	60.2%	60.0%
副目標 3	地域住民よし	観光がプラスの効果をもたらすと捉えている地域住民の割合	71.5%	54.9%	75.0%
		目標項目（KPI）	R 6 目標	R 6 実績	R 8 目標
戦略 1-1	持続可能な観光地マネジメント	持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数	累計 1 地域	累計 1 地域	累計 5 地域
		先駆的DMOの認定数	0	0	1
戦略 1-2	観光の質の向上による高付加価値化	日本人宿泊者観光消費単価	28,000 円	29,538 円	30,960 円
		外国人観光消費単価	47,300 円	63,000 円	50,600 円
戦略 1-3	三重の特色を生かした滞在型観光の推進	平均宿泊日数	1.26 泊	1.21 泊	1.33 泊
戦略 1-4	旅行者を受け入れる基盤の整備	宿泊者満足度	46.6%	48.6%	50.0%
		県外宿泊者 5 回以上リピーター率	61.7%	58.9%	65.0%
戦略 2-1	戦略的な観光マーケティングの推進	観光地域マーケティング戦略を策定したDMOの数	1	1	3
戦略 2-2	国内観光誘客の推進	日本人延べ宿泊者数	821.1 万人	812.9 万人	995.6 万人
		宿泊を伴う教育旅行で県外から訪れた学生数	69,000 人	38,459 人	69,000 人
戦略 2-3	インバウンド誘客／MICE・産業観光の推進	外国人延べ宿泊者数	38.9 万人	24.1 万人	45.4 万人
		国際会議開催件数	9 件	3 件	15 件
戦略 3-1	観光産業の生産性向上	生産性向上に取り組んだ事業者数	累計 10 者	累計 64 者	累計 40 者
戦略 3-2	観光産業を支える人材の確保・育成・定着	待遇改善に取り組んだ事業者数	累計 10 者	累計 46 者	累計 40 者

(2) 令和6年度の主な取組状況（※基本計画に記載の主な取組に対する実施状況を抜粋。）

施策の柱1 質が高く、持続可能な観光地づくり

〔戦略1-1 持続可能な観光地マネジメント〕

【持続可能な観光地づくりの推進】

- 三重県観光連盟の基盤強化を図り、三重県観光連盟によるインバウンド向けマーケティングや地域DMO等への支援を実施しました。

【観光部 観光振興課】

〔戦略1-2 観光の質の向上による高付加価値化〕

【高付加価値旅行者から選ばれる観光基盤の充実】

- 海外レップを通して米、英、仏をはじめとする高付加価値旅行者層を顧客に持つ旅行会社等に対してセールスを行い、三重県の観光コンテンツのプロモーションを実施しました。具体的には、米65社、英61社、仏41社へセールスを行うとともに、各市場でファムトリップを各1回行いました。
- 仏市場においては、仏企業の福利厚生旅行の誘致を目的として現地旅行会社と「仏企業福利厚生旅行の三重県送客に向けて協力するMOU」を締結するとともに、観光セミナーやファムトリップを実施しました。
- 紀伊山地エリアとの連携事業では、英、仏、豪、米市場から延べ50名をファムトリップとして招請するとともに、4市場のメディアで計214件の露出を図り、認知度向上に努めました。

【観光部 海外誘客課】

- 宿泊施設の誘致に向け、南部地域13市町に対し、適地調査を実施し、23件の適地を土地リストとしてまとめ、20社程度の開発事業者へ提示しました。また、開発事業者5社に対し延べ6日のファムトリップを実施しました。
- ヘリコプターを活用した旅行商品の事業計画について、3事業者4件を選定し、現地視察等によるブラッシュアップを実施しました。

【観光部 観光振興課】

【高付加価値旅行者の旅行体験の充実】

- 高付加価値旅行者の多様なニーズに対応するため、「三重県観光ガイド養成プログラム」として、ガイドスキルや旅程管理、フィールドワーク研修など全8回の講座を実施し、14名の修了認定を行いました。

【観光部 観光振興課】

〔戦略 1-3 三重の特色を生かした滞在型観光の推進〕

【周遊促進に向けた滞在価値の創出および宿泊・滞在拠点の整備】

- 三重ならではの観光資源を生かした拠点滞在型観光の推進に向けて、地域DMO等を中心とした推進体制の構築や事業計画の策定、滞在モデルコースの造成、モニターツアーの実施等を支援しました（8団体）。

【観光部 観光振興課】

- 農山漁村ならではの「食」「泊」「体験」を楽しむ「農泊（農山漁村滞在型旅行）」を推進するため、大型集客施設等への来訪者を対象にした周遊プランを作成し、誘客と周遊化に取り組みました。（周遊プラン造成のためのモニターツアー：29プラン、参加者334名、造成した周遊プラン：11プラン）

【農林水産部 農山漁村づくり課】

【「三重にしかない」食を生かしたツーリズムの推進】

- シェフ、有識者等へのヒアリングにより、コンテンツを5件選定し、専門家を派遣し磨き上げに取り組みました。コンテンツに係るタリフを作成のうえ、事業者のビジネスチャンスを広げるための商談会（2/26 VISON）を開催するとともに、旅行会社・メディアが参加した視察ツアー（2件）を実施し、うち1件が宿泊プランの造成につながりました。

【観光部 観光振興課】

〔戦略 1-4 旅行者を受け入れる基盤の整備〕

【旅行者のニーズに合わせた二次交通の充実】

- 国（中部運輸局）とともに市町を直接訪問する合同施策検討会（5市町）の開催や、住民の移動手段確保のため多様な取組を進める市町への財政支援など、市町が実施する地域内交通ネットワークの構築・強化に向けた取組を支援しました。
- 志摩市（7/22～9/16、利用件数：154件）および伊勢市（12/5～3/1、利用件数：384件）の日本版ライドシェア実証事業

【地域連携・交通部 交通政策課】

- 紀伊半島外国人観光客受入推進協議会に参画し、熊野古道伊勢路の来訪者が利用する拠点バス停等の多言語案内表示の整備等の取組を支援しました。

【南部地域振興局 東紀州振興課】

【バリアフリー観光の推進】

- 観光施設等のバリアフリー調査とアドバイスを8施設で実施するとともに、「観光施設における心のバリアフリー認定制度」の認定施設数を増加させることを目的とし、研修会を2回実施し、計78名が参加しました。加えて、研修会参加事業者を含む計15事業者に対して、申請に関する個別のアドバイスを実施し、認定制度の申請につなげました。

○伊勢志摩バリアフリーツアーセンターのホームページについて、スマートフォン対応や検索機能の充実化、多言語対応を行いました。

【観光部 観光振興課】

施策の柱 2 戦略的な観光誘客の推進

〔戦略 2-1 戦略的な観光マーケティングの推進〕

【観光マーケティングデータの収集・分析・提供】

○市町・DMO・観光協会のEBPM推進のための統計情報基盤の確立を目的として、WEBサイト「三重県観光統計データ」について、サイトの改修やデータの充実を行い基盤強化を行うとともに、データ利活用研修を実施しました。

【観光部 観光戦略課】

〔戦略 2-2 国内観光誘客の推進〕

【大都市圏向けプロモーションの推進】

- 首都圏からの来訪者数や観光消費額の増加を図るため、首都圏等大都市圏の比較的消費単価の高い顧客層を対象に、交通広告等の各種広告や情報発信に向けたメディアへの働きかけ等を行いました。（交通広告：JR東京駅、JR新宿駅、阪急梅田駅の3か所）
- 県内への誘客や周遊を促進するため、株式会社ポケモンとの包括連携協定を活用し、県内の鉄道やバス事業者と連携したスタンプラリー等の取組を実施しました（スタンプラリー賞品応募数：3,273件）。

【観光部 観光誘客推進課】

○在阪マスメディアやSNS等を活用した三重の情報発信（375件）を行いながら、有名百貨店での観光プロモーション、鉄道グループや商店街と連携した三重県フェア（観光物産展）の実施などにより、三重の魅力発信に取り組みました。

【政策企画部 関西事務所】

【周年事業や大規模イベントを契機とした誘客の推進】

- 熊野古道世界遺産登録20周年及び大阪・関西万博を契機とした県内への観光誘客を推進するため、交通事業者と連携した旅行商品の造成・販売等に取り組みました（【熊野古道】旅行商品の利用数：宿泊272人泊・日帰り145人、【大阪・関西万博】旅行商品等の造成数：企画きっぷ2件・旅行商品6件）。

【観光部 観光誘客推進課】

○世界遺産登録20周年記念事業として、伊勢神宮から熊野速玉大社までの約170kmの道のりを14日間に分けて歩く「熊野古道伊勢路踏破ウォーク」を実施（のべ参加者数：1,341名（令和6年2月～令和7年12月））しました。

【南部地域振興局 東紀州振興課】

〔戦略 2-3 インバウンド誘客／MICE・産業観光の推進〕

【インバウンドプロモーションの推進】

- J N T Oや近隣府県、広域DMO、県内観光事業者等と連携し、本県の認知度を高め、外国人旅行者の誘致を図るため、海外の旅行博覧会出展、商談会の開催、メディアや旅行会社県内への招請等に取り組みました。

【観光部 海外誘客課】

【M I C E誘致・産業観光の推進】

- 三重県産業観光推進協議会と連携し、海外企業の経営者層が研修目的で来日するツアーの誘致に向けて、エージェントを対象としたトライツアーの実施、国内外の商談会への参加、ホームページやSNSによる情報発信等を行ったところ、実施件数 411 件、のべ 8,250 人の誘客に繋がりました。

【観光部 海外誘客課】

施策の柱3 魅力的な観光産業の確立

〔戦略 3-1 観光産業の生産性向上〕

【観光事業者の経営力向上】

- 観光産業の生産性向上を図るため、観光事業や経営分野に精通した専門家を観光事業者（11 事業者、13 施設）に派遣し個別コンサルティングを行い、生産性向上の取組導入（計 16 事例）を支援しました。

【観光部 観光戦略課】

〔戦略 3-2 観光産業を支える人材の確保・育成・定着〕

【人材の確保・育成】

- 観光事業者に特化した就職説明会を名古屋（会場とオンラインのハイブリッド形式）、大阪で開催しました（【名古屋 2/8】：10 事業者出展、来場者 17 名（会場 10 名、オンライン 7 名）、【大阪 2/22】：11 事業者出展、来場者 17 名）。
- 求人情報サイトを活用し、効果的な求人情報の掲載や適切な人材の紹介等により事業者（15 者）の採用活動を支援しました。

【観光部 観光戦略課】

（3）令和 7 年度の取組について

令和 5 年度末に策定した基本計画に基づき、「旅行者よし、事業者よし、地域住民よしの持続可能な観光地」を 10 年後のめざす姿として、目標達成に向け、令和 6 年度から引き続き取組を進めているところです。

4 指定管理者が行う三重県営サンアリーナの管理状況報告について

(1) 管理状況の県議会の報告

指定管理者制度に関する取扱要綱に基づき、三重県営サンアリーナに関する「令和6年度 指定管理者が行う公の施設の管理状況及び評価」を報告します。【資料1】

(2) 指定管理の状況

公の施設	指定管理者	指定期間
三重県営サンアリーナ	株式会社スコルチャ三重	令和3年4月1日～ 令和8年3月31日【4期目】

(3) 評価基準

ア 指定管理者の自己評価の基準

①評価の項目「1 管理業務の実施状況」の評価

- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 業務計画を順調に実施している。
- 「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
- 「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

②評価の項目「2 施設の利用状況」「3 成果目標及びその実績」の評価

- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
- 「B」 → 当初の目標を達成している。
- 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
- 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

イ 県の評価の基準

- 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
- 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
- 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和6年度分)

<県の評価等>

施設所管部名 : 観光部 観光総務課

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営サンアリーナ (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定管理者の名称等	株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保 (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 サンアリーナの事業の実施に関する業務 2 サンアリーナの施設等の利用の許可等に関する業務 3 サンアリーナの利用料金の収受等に関する業務 4 サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R6	R5	R6	R5	
1 管理業務の実施状況	A	A			開設から30年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備更新により施設の利用環境の改善・利便性向上を図るなど、適切な施設管理に努めている。 また、独自の「熱中症対応手順書」を作成し運用を開始しており、重大な事故の防止に取り組んでいる。
2 施設の利用状況	B	B			新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、行事やイベント等が通常どおり開催される中で、集客力の大きいコンサートが5件開催されたほか、各種スポーツ大会や自主事業の実施等により、施設の利用人数は令和5年度実績を上回り、利用拡大のための取組が実績につながっている。 今後も引き続き関係各所との連携や魅力的な自主事業の実施などにより、施設利用のさらなる増加に向けた取組が求められる。
3 成果目標及びその実績	C	C			数値目標について、6つのうち5つの項目で目標を達成することができなかったが、そのうち4つの項目については目標値に近い成果・実績をあげている。 大型コンサートやプロスポーツ試合の誘致の取組、地域に密着した自主事業の実施など、種々の取組成果が現れてきていると評価できるが、施設利用人数について令和5年度実績から約30%増加しているものの目標達成には至っておらず、成果目標達成に向けて、引き続き種々の取組を進めていく必要がある。

※「評価の項目」の県の評価 :
 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	○開設から30年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備更新により施設の利用環境の改善・利便性向上を図るなど、適切な施設管理に努めている。また、独自の「熱中症対応手順書」を作成し運用を開始しており、重大な事故の防止に取り組んでいる。 ○新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、行事やイベント等が通常どおり開催される中で、集客力の大きいコンサートが5件開催されたほか、各種スポーツ大会や自主事業の実施等により、施設の利用人数は令和5年度実績を上回り、利用拡大のための取組が実績につながっている。 ○数値目標について、6つのうち5つの項目で目標を達成することができなかったが、そのうち4つの項目については目標値に近い成果・実績をあげている。施設利用人数は令和5年度実績から約30%増加したものの、目標達成には至っていない。 ○コンサートやプロスポーツ試合の誘致の取組、地域に密着した自主事業の実施など、種々の取組が一定成果として現れてきている。成果目標達成に向けて、今後も関係各所との連携や魅力的な自主事業の実施などを通じて、施設のさらなる利用促進を引き続き着実に進めていく必要がある。
--------	---

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 三重県営サンアリーナ管理運営事業の実施に関する業務

■サンアリーナ独自の「熱中症対応手順書」の作成

令和6年の夏は、観測史上でも屈指の酷暑となる中、サンアリーナ独自の「熱中症対応手順書」を作成し、7月22日から運用を開始した。暑さ指数(WBGT)を熱中症指標計にて計測して、ご利用者との確認の場を設け、場合によっては冷房設備の利用を促し、その対応を記録保管するなど、これまでより一歩進んだ取り組みを行った。

■開館30周年の情報発信

5月23日、サンアリーナが開館30周年を迎えたことを受け、「おかげさまで開館30周年」のロゴを作成し、正面玄関設置のデジタルサイネージ、ホームページ、毎月発行の独自広報紙「かわら版」に掲載し、情報発信を行った。

■防災対策の強化

「南海トラフ地震」の発生確率の高まりを受け、令和4年より施設内に施設職員用の防災備蓄庫の整備を進めてきたが、令和7年3月に完成した。施設職員が安心して働ける職場環境を構築するとともに、サンアリーナは「三重県広域受援計画」において重要な役割を担っていることから、施設の防災力の強化を図った。

■広報及び利用促進活動

主に次の広報活動を通して施設の利用促進を図った。

・施設独自の月刊広報誌「サンアリーナかわら版」の発行(発行部数 約6,000部/月)

・伊勢地域みっちゃく生活情報誌「イセウ」での情報発信(発行部数 約65,000部/月)

毎月、ボルダリングDAYの開催案内を掲載

・行政が発行している広報紙での情報発信

自主事業開催のお知らせを、「広報いせ」16回、「広報まつさか」「広報わたらい」各1回掲載。

・施設ホームページにおける情報発信

計58回の更新を行い積極的に情報発信を行った。

・大会・興行関係者への誘致活動

令和6年度は、4月に「THE RAMPAGE」、5月に「EXILE THE SECOND」、6月に「水樹奈々」、10月には「UVERworld」、11月には「ゆず」が各2日間、計10日間コンサートが開催された。コンサート開催時には、主催者役員が管理事務所を訪れ、コンサートの近況についての意見交換を行った。

■自主事業の実施

計35件、延べ133回の自主事業を開催し、延べ7,698名の来館者をお迎えした。地元企業や各関係団体などの協力をいただきながら、地域の皆様へスポーツ教室やカルチャー講座に参加して頂く機会を提供するとともに、施設利用料の一部を施設側にて負担し、運営の協力をさせていただいている「サンアリーナカップ」も開催し、スポーツ競技の普及・振興に寄与した。

■地域活性化とスポーツツーリズムに関して

・5回のコンサート開催を通じて、地域活性化(宿泊、交通、観光、土産)に大きく寄与した。最近では、アーティストや観客がSNSを通してタイムリーに情報発信する機会が多く見られ、特にアーティストが発信する情報は、地域経済へ大きな影響を与えている。

・過去9回にわたり開催してきた「トレイルランニングレース」を第10回目となる令和6年度は、ファイナル大会として実施した。本レースへのエントリーは、県内はもとより、北海道から九州まで全国各地からいただいていることから、本レースを通して三重県の魅力を県内外の方々に発信することが出来た。また本レースは実行委員会方式を採用し、地域の様々な分野の方に参加いただくことで、周辺地域を巻き込みながら地域のつながりを広げていくことができた。

■省エネへの取組

照明設備による電力消費量の一層の削減を図るため、「三重県営サンアリーナ 全館完全LED化計画」を令和6年度に作成し次の取組を行う。

・2階サブアリーナ(観客席含む)・会議棟に設置されている誘導灯23台のうち、蛍光灯使用機器である14台についてLED機器へ更新を行った。

・メインアリーナ3階の以下の照明器具を更新。3階回廊ロビー(A、C、E、G)、3階回廊バリアフリートイレ、トイレ前ダウンライト(12箇所)、ペテストリアンデッキ(C、E、G)、倉庫(5室)、機械室(10室)、キャットウォークへの階段(C、G)、非常灯(14台)、非常灯(29球)

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

■日常の設備運転に関して

職員による日常巡視を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合等に迅速に対応した。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先職員と協力し適正に管理を実施した。

■環境整備事業に関して

環境整備事業は、下記9件の事業について計画的に実施し、施設の安全性・利便性の維持向上を図った。

- ・第1回環境整備事業 漏水修繕工事(レセプション室、倉庫2)
- ・第2回環境整備事業 レセプション室音響改修
- ・第3回環境整備事業 レセプション室・国際会議室・バトン更新
- ・第4回環境整備事業 中央監視装置サーバー更新
- ・第5回環境整備事業 サブアリーナ天井スピーカー更新
- ・第6回環境整備事業 電気設備更新工事
- ・第7回環境整備事業 厨房機器更新工事
- ・第8回環境整備事業 屋外排水管修繕工事
- ・第9回環境整備事業 体操競技器具更新

③県施策への配慮に関する業務

■車椅子対応センサー式冷水機設置後の利用状況

令和4年度第3回環境整備事業にて更新いただいた車いす対応センサー式冷水機(ウォータークーラー)4台におけるマイボトル給水機能の利用状況及びCO2(二酸化炭素)の削減効果については下記の通りとなった。

設置場所	給水回数(1回あたり500ml)
1階サブアリーナトレーニング室前	3, 221回
2階サブアリーナ 観客席前	926回
3階メインアリーナ A入口ロビー	2, 455回
4階メインアリーナ A自販機横	1, 067回
合 計	7, 669回

※一般的な500mlペットボトルの製造・廃棄・リサイクルにかかるCO2(二酸化炭素)排出量は、1本あたり119gであるため、 $119\text{g} \times 7,669\text{本} = 912,611\text{g}$ のCO2(二酸化炭素)削減につながった。

【引用先:環境省/リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析について】

本件は、熱中症への対応策としてはもちろんのこと、県が推進するSDGsへの取組にも貢献できたと考え

④情報公開・個人情報保護に関する業務

■令和6年度、情報開示請求はなかった。

⑤その他の業務

■周辺交通・駐車場対応

コンサートが5回開催され、周辺交通・駐車場対応について心配されたが、以前から継続しているホームページ等での公共交通機関のご利用のお願いにより、駐車場が溢れることもなく、地域住民に迷惑になるような事象もなく終了した。

■人材育成事業

人材育成事業として、下記講習等に職員が参加した。

- ① 伊勢税務署主催「給与支払者向け定額減税説明会」総務グループ2名(5月)
- ② SMBCコンサルティング主催「人事労務担当者が知っておくべき基礎」総務グループ1名(7月)
- ③ SMBCコンサルティング主催「法人税の基礎知識と実務ポイント」総務グループ1名(2月)
- ④ 日本年金機構、三重県社会保険協会主催「令和6年度制度説明会」総務グループ2名(2月)

(2)施設の利用状況

	【平均稼働率】 (6年度実績)	(目標)	(5年度実績)	【利用人数】 (6年度実績)	(目標)	(5年度実績)
メインアリーナ	54.3%	60.0%	57.2%	アリーナ 163,618人	-	122,457人
サブアリーナ	67.6%	70.0%	69.0%	会議室等 15,793人	-	14,163人
会議室等	19.2%	20.0%	18.8%	トレーニング室 4,264人	-	4,375人
				フィットネス室 2,499人	-	3,165人
				合 計 186,174人	300,000人	144,160人

2 利用料金の収入の実績

	6年度実績	6年度目標	対目標比	5年度実績	対前年比
利用料金収入	90,438,592円	80,300,000円	112.6%	82,319,386円	109.9%
※利用料金減免等の内訳 割引金額 3,059,596円 減免金額 1,803,940円 特別割引金額 234,120円 特別減免金額 2,126,520円 合計 7,224,176円					

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R6年度	R5年度		R6年度	R5年度
指定管理料	206,721,000	210,712,000	人件費	71,606,333	68,515,259
利用料金収入	90,438,592	82,319,386	光熱水費	58,898,089	55,422,201
自主事業収入	19,562,241	14,761,846	その他一般管理費	149,555,994	135,718,385
営業外収入	8,767,090	8,646,005	自主事業経費	19,786,071	16,974,394
特別利益	0	174,209	消費税	9,433,580	10,338,341
合計 (a)	325,488,923	316,613,446	合計 (b)	309,280,067	286,968,580
収支差額 (a)-(b)	16,208,856	29,644,866			

※収支差額は法人税等税引前当期純損益額

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	7,224,176	7,778,590
---------	-----------	-----------

4 成果目標とその実績

【数値目標】	目標値	成果・実績	備考(参考数値)
メインアリーナ平均稼働率	60.0%	54.3%	令和5年度 57.2% 令和4年度 53.5% 令和3年度 45.1%
サブアリーナ平均稼働率	70.0%	67.6%	令和5年度 69.0% 令和4年度 66.3% 令和3年度 62.3%
会議室等平均稼働率	20.0%	19.2%	令和5年度 18.8% 令和4年度 14.0% 令和3年度 11.0%
自主事業イベント件数	30件	35件	・スポット型32件/47回/年間(スポーツ健康振興事業、文化事業等) ・通年型3件/86回/年間(スポーツ教室、ダンススクール、 ボルダリングDAY)
全館年間利用件数	500件	483件	令和5年度 494件 令和4年度 510件 令和3年度 387件
アリーナ利用人数	—	163,618人	令和5年度 122,457人 令和4年度 106,616人 令和3年度 51,393人
会議室等利用人数	—	15,793人	令和5年度 14,163人 令和4年度 14,960人 令和3年度 10,027人
トレーニング室利用人数	—	4,264人	令和5年度 4,375人 令和4年度 5,209人 令和3年度 5,384人
フィットネス室利用人数	—	2,499人	令和5年度 3,165人 令和4年度 4,078人 令和3年度 4,101人
サンアリーナ利用人数合計	300,000人	186,174人	令和5年度 144,160人 令和4年度 130,863人 令和3年度 70,905人
今後の取組方針	■三重県営サンアリーナは建設後30年、当社が指定管理者として管理させていただいてから20年が経過し、その間県内最大級の多目的施設として、文化・スポーツ・観光の多様な場を提供してきた。しかしながら、イベント需要の多様化や安全・快適性への期待の高まり、施設設備の経年に伴う対応課題が顕在化してきている。昨今の暑熱対策により、幼稚園行事などの室内開催への移行や、スポーツ団体の7月・8月の公式戦見合わせなど、大会環境も大きく変わってきている。そのため空調設備が完備された大型施設である三重県営サンアリーナの新たな需要を探っていく。 ■来場者数をはじめ収益面でも重要視する大型コンサートやスポーツ系、エンターテインメント系イベント等の興行会社に対し、直接提案活動の取り組みをこれからも継続して行い、運営協力や地域の情報提供や宿泊先仲介等、主催者にとっても開催メリットのある環境づくりを行いながら、積極的な誘致を行う。 ■サンアリーナは三重県観光部が所管していることから、多くの来場者を迎えることができる大型施設として、県内外から多くの方を集客し、地域経済への波及効果を期待されている。この期待に応えるため、これまで以上に地域の観光団体や交通機関、宿泊・飲食業の企業とも連携し、受け入れ体制を構築していく。 ■自主事業においても、暑い時期の屋外イベントの開催を控え、室内イベントは冷房を使用して開催するなど、参加者の健康に留意しながら開催していく。平成24年から10回開催し、令和6年度で終了した「伊勢の森トレイルランニングレース」は、大きな事故もなく無事に終わることができた。これに代わるものとして、令和6年度プレ大会として開催した「トレイルウォーキング」では、約100人の参加があり、関東や九州からシニア層の参加が多く見られた。令和7年度以降もスポーツツーリズムイベントとして、開催していく。 ■令和6年度にサンアリーナ独自の「熱中症対策手順書」を作成し、運用している。今後も同手順書に基づき、熱中症警戒アラート発令の情報提供や暑さ指数(WBGT)を熱中症指標計にて、リアルタイムで測定して、お伝えし、空調利用の積極的な推奨など、これまでより一歩進んだ熱中症対策の取り組みを行う。 ■今後も引き続きサンアリーナを運営管理をするにあたり、日常の監視、点検、整備を確実に実行し、不良箇所などの早期発見、早期修繕を実践することで、貸館に支障をきたさないよう努め、利用者の快適性の維持を図る。		

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R6	R5	
1 管理業務の実施状況	A	A	■職員による日常点検を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合や障害に関しても、迅速な対応にあたった。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先職員と協力し適正に管理を実施した。 ■令和6年5月で、サンアリーナは開館30周年を迎えるにあたり、正面玄関サインネーじとホームページ、かわら版にて「開館30周年」の情報発信を行った。 ■サンアリーナ独自の「熱中症対応手順書」を作成し、令和6年7月より運用を開始した。ご利用者と暑さ指数の確認の場を設け、場合によっては冷房設備の利用を促し、その対応を記録保管するなど、これまでより一歩進んだ取り組みを行った。 ■空調設備に次いでエネルギーを消費する照明器具のLED化を行うことによって、エネルギー使用量を削減する省エネ対策を行った。尚、LED化は蛍光灯の製造販売が2027年末と決まったことから、「三重県営サンアリーナ 全館完全LDE化計画」を令和6年度に独自に作成し、計画的に推進した。 ・2階サブアリーナ(観客席含む)・会議棟に設置されている誘導灯23台のうち、蛍光灯使用機器の14台。 ・メインアリーナ、3階回廊ロビー(A,C,E,G)・3階回廊バリアフリートイレ・トイレ前ダウンライト(12箇所)・ペテストリアンデッキ(C,E,G)・倉庫(5室)・機械室(10室)・キャットウォークへの階段(C,G)・非常灯(14台)・非常灯(29球)の照明器具の更新を行った。
2 施設の利用状況	B	B	■新型コロナウイルスも感染症法上の位置付けが5類に移行し、季節性の感染症として定着しつつある中、5つのコンサートや、スポーツ大会も東海大会や全国大会も開催されるなど賑わいが戻ってきた。平均稼働率では、メインアリーナ・サブアリーナが微減となったが、その他会議室は前年を上回り、コロナ禍前と比較しても遜色ない数値となった。 ■5回のコンサートが開催されたことをはじめ、お伊勢さんマラソンや全日本中学生ソフトテニス大会、伊勢志摩労働者福祉協議会の福祉フェスティバルなど大型のスポーツ大会やイベントも開催された。
3 成果目標及びその実績	C	C	■各スポーツ大会も県域はもちろん、東海大会や全国大会も行われ、コンサート等大規模なイベントもコロナ禍前の水準で実施されるようになって来た。施設の平均稼働率については、前年比メインアリーナで95.0%、サブアリーナで96.6%、その他会議室で101.9%となった。利用人数については、合計で前年比129.1%となったが、目標値の達成には至らなかった。 ■貸館件数は483件と僅かに目標の500件を下回ったが、自主事業は、「伊勢の森トレイルランニングレース」を実施するなど、35件の自主イベント事業を実施し、30件の目標を達成した(令和5年度実績34件)。

※評価の項目「1」の評価 :

- 「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

- 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価

■新型コロナウイルスも感染症法上の位置付けが5類に移行し、季節性の感染症として定着しつつある中、スポーツ大会やコンサート、式典・集会など、多様なイベントが開催され、多くの来館者で賑わった。地域スポーツ振興、文化発信の場としての役割を果たすとともに、猛暑や豪雨といった自然災害への対応にも重点を置いた1年となった。

■年度初めの4月こそ比較的利用が少ない時期であったが、5月に入ると全国高校総体(インターハイ)に向けた三重県高校総体がスタートし、大規模な大会が開催された。特にバドミントン競技では、個人戦・団体戦ともに年間を通して多数の参加者を迎えた。他にも体操・新体操、バスケットボール、バレーボール、剣道、卓球、ソフトテニスなど、幅広い競技で県内大会や東海大会、全国大会などが開催され、多くの学生や社会人アスリートにご利用いただいた。

■コンサートも盛況で、「THE RAMPAGE」「EXILE THE SECOND」「水樹奈々」「UVERworld」「ゆず」といった5組の人気アーティストの公演が開催され、県内外から多くのファンが集い、宿泊先や交通機関など地域経済の活性化にも貢献できた。

■地域に根差したご利用としては、市内幼稚園・こども園の遠足行事(雨天時)や運動会でのご利用が定着し、天候に左右されない屋内施設としての利便性が高く評価されている。県内でも屋内施設での運動会・体育祭が増えてきているとお聞きした。今後は幼稚園・こども園に限らず、小中学校にも利用促進していこうと考えている。また、恒例の伊勢志摩労働者福祉協議会主催の「福祉フェスティバル」や、伊勢市環境会議主催の「伊勢市環境フェア」など地域住民の交流イベントの会場としても活用された。式典集会では、JA伊勢の通常総代会、三重県教職員組合の定期総会、安全運転管理者講習などがサブアリーナで開催され、コロナ禍以降、大型会議室としての利便性が評価され、引き続きご利用いただいている。

■今年度の夏は例年以上に厳しい猛暑となり、熱中症対策の重要性が増した。サンアリーナでは暑さ指数(WBGT)をリアルタイムで測定し、利用者への注意喚起を行いながら貸館業務を実施した。7月から運用を開始したサンアリーナ独自の「熱中症対策手順書」を活用し、重大な事故を未然に防ぐための取り組みを徹底した。加えて、地震や台風などの自然災害への対応も求められた。8月日向灘を震源とする地震発生後、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」の発令を受けて、学生合宿のキャンセルが数件発生した。迷走台風による休館も余儀なくされるなど、施設運営にも影響が及んだ。今後も酷暑や自然災害といった諸問題と対峙しながら安全・安心にご利用いただけるよう、取り組んでいく。

■自主事業では、年間35件の事業を実施した。6月にボルダリング施設の活性化を目的として、名張市出身のスポーツクライミング2024シーズンリードW杯日本代表の小林舞さんを招聘し、「ボルダリングクリニック」を開催した。今年ファイナル大会となった「伊勢の森トレイルランニングレース2024 20km FINAL」では、北海道から九州まで750名に参加いただき、大きな事故もなく10回開催をもって終了することができた。このレースは、長年にわたり県内での競技の普及と、スポーツツーリズムの推進に貢献できたと自負している。それに続く自主事業として、11月に「トレイルウォーキングin伊勢」をプレ大会として開催し、令和7年度より本格的に実施する。

5 三重県営サンアリーナの指定管理候補者の選定過程について

三重県営サンアリーナの令和8年度以降の指定管理者を選定するため、外部有識者等による三重県営サンアリーナ指定管理者選定委員会（以下「選定委員会」という。）を設置し、選定を進めています。

(1) 進捗状況

7月10日	第1回選定委員会 ・審査基準及び配点表（別紙1）の決定
7月18日～8月8日	募集要項の配布
8月4日	現地説明会の開催
8月27日～9月3日	申請の受付
10月8日	第2回選定委員会 ・ヒアリング審査

(2) 選定委員の氏名及び役職名（敬称略）

委員長	神崎 公宏	（三重高等学校 校長 三重県高校体育連盟推薦）
委員長代理	滝澤 多佳子	（税理士 東海税理士会三重県支部連合会推薦）
委員	栗須 百合香	（三重工熱株式会社 代表取締役社長 三重県経営者協会推薦）
委員	村林 敏也	（弁護士 三重弁護士会推薦）
委員	黒宮 健一	（公募）

(3) 申請の受付状況

ア 申請者の名称

株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保
（三重県伊勢市朝熊町字鴨谷 4383-4）

イ 事業計画書の要旨（申請者が作成したもの）

別紙2のとおり

(4) 今後の予定

ア 審査

10月29日 第3回選定委員会（最終審査）開催予定。

県は、選定委員会の審査結果を踏まえ、指定管理候補者を選定します。

イ 指定管理者の指定

令和7年11月三重県議会定例会において、指定管理者の指定にかかる議案を提出します。

ウ 協定締結

指定管理者の指定後、令和8年3月までに締結します。

エ 指定管理期間

令和8年4月1日から令和13年3月31日までの5年間

三重県営サンアリーナ指定管理者審査基準及び配点表

別紙 1

①事業計画の内容が、県民の平等な利用を確保することができるものであること

審査項目	審査基準	配点
管理に対する基本方針	①-1 管理運営の基本方針が県の方針と合致しているか	10
	①-2 施設の特性や業務内容を理解しているか	10
利用者の公平、公正な利用	①-3 社会的弱者(老人、障がい者)への配慮等、利用者の公平・公正な利用について考慮しているか	10
企業(団体)の社会的責任	①-4 企業(団体)倫理、コンプライアンス(法令遵守)、環境配慮(環境負荷に低減に関する取組)への対応は適切か	20
小 計		50

②事業計画の内容が、施設等の適切な維持管理を図ることができるものであること。

審査項目	審査基準	配点
利用者の安全確保	②-1 利用者の安全の確保、事故防止対策は具体的で効果的なものであるか	20
	②-2 危険箇所・破損箇所・不良箇所の早期発見や適切な措置の提案がなされているか	20
施設等の維持管理	②-3 維持管理は管理基準を達成し、現在の維持管理レベルを保つものであるか	10
	②-4 施設等の維持管理が効率的で安定的に行われる取組が提案されているか	10
危機管理体制や緊急時の対応	②-5 緊急時・事故発生時における危機管理対応は適切な提案がなされているか	20
	②-6 緊急事態を想定した研修や訓練等の対策は適切に提案されているか	10
個人情報の保護への対応	②-7 個人情報保護を積極的に行うチェック体制や責任体制、職員への教育・研修方法は適切な提案がなされているか	20
小 計		110

③事業計画の内容が、施設の効用を最大限発揮できるものであり、県民サービスの向上を図ることができるものであること

審査項目	審査基準	配点
施設等の利用促進	③-1 施設の稼働率を高めるための効果的で具体的な取組が提案されているか	20
	③-2 各種コンベンションや競技会の誘致活動を積極的に展開する具体的な提案がなされているか	10
	③-3 自主事業は具体的で独創性があり、集客交流につながる内容となっているか	10
	③-4 施設の魅力を積極的にPRするための効果的で具体的な広報の取組が提案されているか	10
サービス向上への取組	③-5 飲食サービス、物販サービス等は、利用者のニーズや利便性を考慮したものになっているか	10
	③-6 利用者の意見・要望・苦情の把握及び業務への反映などサービス向上のための積極的な姿勢がみられるか	20
他団体、地域との連携	③-7 他の団体との連携は具体的で効果的な提案がなされているか	10
	③-8 地域との協働の取組は具体的で効果的な提案がなされているか	10
	③-9 地域経済に貢献する具体的な提案がなされているか	10
利用料金の収受等	③-10 サービスの向上や利用者の増加に繋がる料金設定がなされているか	10
貸館業務の手続き	③-11 利用の申し込みから許可までの一連の手続きがシステム化され利用者にとって使いやすいものとなっているか	10
	③-12 利用者に対し、社会的弱者への配慮や環境負荷の低減を求める内容となっているか	10
成果目標	③-13 指定管理者自らが設定した成果目標は具体的で適切な内容となっているか	10
	③-14 県が設定した成果目標が達成できる具体的で適切な方法が提案されているか	10
小 計		160

④事業計画の内容が、施設等の管理に係る経費の縮減を図るものであること

審査項目	審査基準	配点
収支計画の積算の考え方	④-1 収入、支出の積算と提案事業内容との整合性が図られているか	10
	④-2 提案された事業が十分実施できる計画となっているか	20
コスト削減の考え方	④-3 実効性がありかつ創意工夫がある経費の効率化方策が提案されているか	20
	④-4 県費負担額の軽減につながっているか	10
小 計		60

⑤指定を受けようとするものが、事業計画に沿った管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基礎を有していること

審査項目	審査基準	配点
法人等の組織体制	⑤-1 提案に沿った管理を実施するための人員の確保、組織体制及び責任体制が適切なものとなっているか	20
法人等の財政的基礎	⑤-2 施設を継続的・安定的に運営できる能力があるか、又は施設経営の実績があるか	20
人員配置、勤務体制	⑤-3 提案事業内容が実行できる業務内容に応じた人員配置、勤務体制となっているか	20
職員の人材育成方針、研修体制	⑤-4 国内外のMICE誘致、開催等に対応できる人材育成方針、研修計画となっているか	20
小 計		80
合 計		460

(様式 5)

三重県営サンアリーナ事業計画書の要旨

申請者名	株式会社スコルチャ三重
1 管理経営方針	■当社の企業理念 サンアリーナを集客交流、産業・観光活性化、地域振興の拠点とし、伊勢ならではの『もてなしの心』を持って ○県民には健康・文化交流の場として ○県外からの来訪者にはスポーツ・文化県三重の標榜と地域観光窓口として ○地域産業には経済活性化の基盤として のお役立ちに努め、『しあわせ連鎖』の複合的相乗効果を創出します。 ■新5ヶ年に向けてのテーマ ・指定管理実績20年間の「知識と経験を生かした管理・運営」を軸に県外からの誘客や県民のスポーツ振興、県民サービスの向上を今まで通り心掛け管理運営を行います。 ■管理経営の基本方針 「適正に管理する」基盤の上に、「であいと交流のステージを活性化」することこそが当社のサンアリーナ管理経営の基本方針です！ 地域に根ざし、地域と連携し、地域への貢献を目指す当社が、サンアリーナという素晴らしい舞台で精一杯の持ち味を発揮し、成果の創出に挑戦します！ ■企業の社会的責任 ・当社が定めた「企業理念」「コンプライアンス方針」「社員行動指針」「個人情報保護方針」を実践していきます。また環境配慮、社会的弱者への配慮や労働安全衛生にも取り組みます。
2 管理業務に関する計画	■利用者の安全確保 ・職員の日常館内外巡視により整理・整頓と危険箇所の早期発見に注視し迅速な処置を行い、事故の未然防止に努めます。 ・夏場の熱中症対策をしっかりと実施します。 ・防犯カメラを増台・録画しセキュリティと安心・安全感を高めます。 ■施設、備品等の維持管理 ・施設維持管理基本仕様書を遵守し、職員と委託契約に基く専門業者との緊密な連携の下に、巡視点検、定期点検、法定点検の徹底と障害箇所の迅速な修復を行い、適正な整備水準の維持に努めます。 ・自らも積極的に修繕費を投入する一方、大型修繕課題については県のLCC(ライフサイクルコスト)による対応が適切に実施されるよう県施策に積極的に協力します。 ■災害・事故等への対応 ・万一の事故、災害に備え、危機管理マニュアル等の整備と緊急対応体制を構築するとともに職員の避難誘導訓練等を行います。 ・AEDや救急備品を整備し、救命技能を維持・向上します。 ■個人情報保護 ・個人情報保護法や県条例と併せ当社個人情報保護方針や規程を定め、遵守していきます。
3 運営業務に関する計画	■施設等の利用促進につながる取組 ・平成18年4月より従前の時間帯料金制から、1時間単位料金制に改善し、また様々な割引・減免制度を拡充しました。これによりサンアリーナという非常に大きな施設が、短時間でのご利用を希望される利用者でも大変利用し易くなりました。引き続き本制度を運用し、あらゆる利用者のニーズに応え、一層の利便促進を図ります。 ・ホームページをスマートフォン利用者からも閲覧し易いよう改善し、誘致促進につなげるとともに利用者のサービス向上に努めます。 ・「サンアリーナかわら版」を県内主要公共施設約200箇所に引き続き配置し、県民へ施設のPRに努めます。

(様式5)

	・大手興行会社、中央スポーツ団体、県内各団体への直接提案を積極的に推進し、従来以上に多くの大型催事の誘致の実現に努めます。 ■自主イベントを積極的に推進 ・自主イベントは、これまでサンアリーナと比較的疎遠であった幅広い県民の利用機会を創出し、その中で地域との連携を深め、地域活性化や県外誘客・スポーツツーリズムに寄与する目的のもとに、今後も積極的に開催を続けます。 ■利用者サービス向上に向けた取組 ・スマートフォンやノートパソコンの利用者のためWi-Fi環境を整備。 ・利用者からの声を反映し、ほとんどの会議室及び控室周辺にLAN端子を設置しインターネット環境を整備。 ・令和5年5月にミニショップ（菓子、飲料、レトルト食品、日用品、スポーツ用品等の販売）へQRコード決済（PayPay）を導入し利便性を高め今後も引き続き運営します。 ・催事（主催者）毎に当社の担当者を固定し、予約から利用完了まで連続性を保ち、安心いただけるサポート体制を引き続き運用致します。 ■他団体、地域との連携 ・地域の団体等と協同し自主事業を実施し地域活性化に努め、大型催事を誘致することで地域経済に貢献していきます。 ■利用者ニーズの把握と反映 ・当社では、ご意見箱の設置や利用者アンケートを実施することで利用者ニーズを把握し、管理運営に反映させております。 ■成果目標の達成 ・誘致活動の強化、そして自主事業による集客を積極的に行い県の設定した成果目標や自己設定目標について達成を目指します。							
4 収支計画の積算の考え方	■収支計画の積算の考え方 ・コロナ前とコロナ後の施設利用の状況を分析し、次のとおり市場の変化、社会の変化を検証の上、収支計画の積算をいたします。 ・市場の変化（東海地区のコンサート会場の新設他） ・社会の変化（急速に進む少子高齢化及びコロナ後の会議形態の変化） ■コスト削減の考え方 ・3大経費である人件費、業務委託費、水光熱費の削減及び適正管理に努めます。							
5 組織及び人員	■職員の雇用形態、勤務体制 ・人員の確保及び採用に関しては「県内雇用」「正社員登用」「高齢者の積極的な活用」を基本方針とします。 ・365日・午前9時～午後9時の貸館対応を行うため、引き続き全職員が1か月単位の変形労働制で勤務し、勤務日と休日のバランスの取れたシフト勤務体制のもと、効率よく施設の運営管理を行います。 ■職員の人材育成 ・普通救命講習Ⅰ（AED取扱訓練含む）及び防犯講習を定期的に全職員が受講するように致します。 ・基本は自己啓発を奨めつつ、勤務意欲ならびに専門技能の向上を目指し、社内外の研修参加や資格取得に取り組んで参ります。							
収支計画書（千円）	年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	備考	
	収入合計	285,470	285,970	286,470	286,970	287,470		
	内訳	指定管理料	201,320	201,320	201,320	201,320	201,320	
		利用料収入	73,700	74,200	74,700	75,200	75,700	
		その他収入	10,450	10,450	10,450	10,450	10,450	
	支出合計	279,685	282,345	284,325	285,825	287,305		

6 各種審議会等の審議状況の報告について

(令和7年6月3日～令和7年9月24日)

(観光部)

1 審議会等の名称	令和7年度第1回三重県観光審議会
2 開催年月日	令和7年7月1日(火)
3 委員	【会長】埼玉大学 教授 石阪督規 他11名出席
4 諮問事項	・インバウンド戦略策定に向けた審議 ・三重県観光振興基本計画(令和6年度から令和8年度)に基づく令和8年度アクションプラン(案)の策定に向けた令和6年度の取組の振り返りと今後の取組方針に係る審議 等
5 調査審議結果	インバウンド戦略策定、三重県観光振興基本計画(令和6年度から令和8年度)に基づく令和8年度アクションプラン(案)の策定に向けた令和6年度の取組の振り返りと今後の取組方針についてご審議いただいた。
6 備考	

1 審議会等の名称	三重県営サンアリーナ指定管理者選定委員会
2 開催年月日	令和7年7月10日(木)
3 委員	【委員長】 神崎 公宏 【委員長代理】 滝澤 多佳子 他3名
4 諮問事項	三重県営サンアリーナ指定管理者選定に関する審査基準及び配点表の作成について
5 調査審議結果	審査基準及び配点表(案)についてご審議いただき、原案どおりとすることが適切であるとの結論となった。
6 備考	